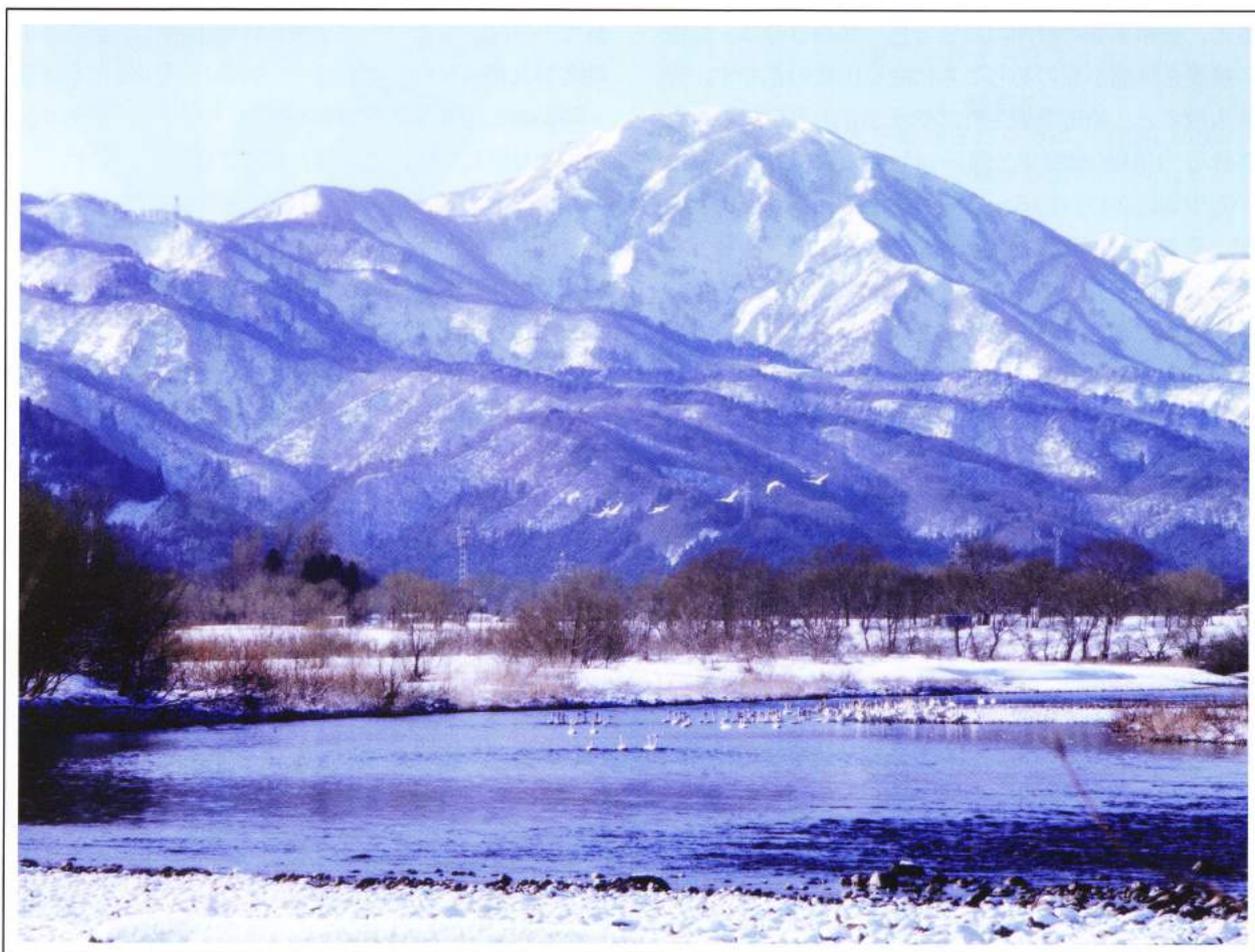


臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報

平成28年(2016)新春号



早出川に群れる白鳥 霊峰白山を背景にして、早出川に飛来した白鳥の群れである。白鳥といえば水原の瓢湖を連想するが、母校を通り過ぎた先にある大堤が近年、白鳥の飛来数で評判になっていると云う。数としては瓢湖をしのぎ、多い日には2,500羽を超えるそうである。10月末頃から第一陣が飛来し始め、天空から鳴き声が聞こえだすと「おお！今年も来たか」と空を見上げ、冬の到来を思うのだと云う。なお、北帰行は2月末頃から始まるそうだ。

撮影・五泉市在住の木村安雄氏（高12回）提供

臥龍が丘の春愁

～やまぶきの里伝説～

会長 金子 鶴男 (高5回)



謹んで新春のお慶びを申し上げ、皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げます。本年の十二支季節の花は「百日紅・猿滑・さるすべり」です。

先般、ベーゼンドルファー修復基金に、多くの同窓生やほか多くの方々のご支援ご協力を頂きました方々へ、改めまして感謝とお礼を申し上げます。また「ベーゼンドルファー・ピアノ修復寄付者ご芳名」ボードが母校音楽室に設置されたことを昨年、確認して参りました。

さて、毎年早春の時期になると思いがあるのは、母校前の緑濃き臥龍が丘のあちこちに咲く山吹の花です。先年友人数名と、埼玉県越生町にやまぶきの里伝説の舞台とされる「山吹の里歴史公園」へ行ってきました。4月上旬から中旬にかけ、約3,500本も植えられた山吹の花が、その山一帯を黄金色に染め、壮観に咲き誇っています。公園内を登っていくと、山頂から越生の町や秩父連峰が一望でき、一頻り鑑賞した後、近くの銘店処で談論風発の中、あの有名な山吹の里伝説が大いに議論されました。それは、太田道灌が武蔵越生の地に狩りに来て突然のにか雨に遭い、農家で蓑傘を借りようと立ち寄った家の娘が出てきて、一輪の山吹の花を差し出した話です。「七重八重花は咲けども山吹の実の一つだになきぞ悲しき」という古歌を道灌は知らなかった事を恥じて、それ以後、歌道に励み歌人としても高名になったと言われております。

ここで、やまぶき伝説を通観していきます。太田道灌は関東管領職として関東周辺を統治しており、山吹という地名・記念碑・祈願木、道灌銅像ほか関連説を踏査しました。

豊島区高田の神田川に架かる面影橋の近くに「山吹の里の碑」があり、山吹町の町名があります。近年、豊島

区内では元気に遊ぶ子どもの姿が見られ、この公園の周辺が山吹の里として有力な地域であるため「山吹の里公園」と命名されました。江古田・

沼袋の戦いで近くの氷川神社に陣屋を構え、戦勝を祈願した時に「道灌杉」を植えました。それに関する解説版や、神社の由緒書にも道灌の陣所であったことが触られています。また、千葉県柏市にも道灌の名を持つ小字地名が九箇所所在しています。神奈川県川崎市幸区夢見ヶ崎動物公園、東端古墳跡地には「道灌碑」があり、横浜市鶴見区に「道灌兜塚碑」が建てられています。

銅像として東京都荒川区日暮里駅前に騎馬姿の道灌銅像「回転一枝」があります。有楽町東京国際フォーラムのガラス棟にも道灌銅像があり、川越市役所庁舎前、さいたま市岩槻区役所前にも立像があります。

太田道灌は関東管領職を統治し、武蔵国入間郡河越城(川越)、埼玉郡岩槻城、武蔵国豊嶋郡に江戸城を築城いたしました。また、「太田家譜」によると越後村松藩とは友好関係にあったと記されております。

それらを勘案され臥龍ヶ丘に夢とロマンの山吹の花いっぱい願っています。



平成28年度キャッチフレーズ

今こそ起せ！今こそ見せろ松城魂！

第59回 村松高校 東京同窓会定期大会

はす いけ かおる
『蓮池 薫氏 講演 ～拉致問題の本質を語る～』のお知らせ



《 講師のプロフィール 》

昭和32年(1957年)新潟県(柏崎市)生まれ。
新潟県立柏崎高等学校を経て中央大学法学部3年在学中の昭和53年(1978年)7月31日、拉致されて北朝鮮での生活を余儀なくされる。

平成14年(2002年)10月15日、24年ぶりに帰国を果たす。

平成16年(2004年)9月24日中央大学に復学。翌17年(2005年)から学校法人柏専学院嘱託職員となり新潟産業大学で韓国語の教育に従事して翻訳者としての仕事をこなし、初訳書『孤将』を刊行。20年(2008年)3月、中央大学法学部を卒業し、同年4月から新潟産業大学国際センター特任講師、21年(2009年)から同大学経済学部特任講師、22年(2010年)から同大学同学部専任講師。同年、新潟大学大学院現代社会文化研究科社会文化論専攻(韓国・朝鮮史)博士前期課程に入学。同修了、文学修士。25年(2013年)4月、新潟産業大学経済学部准教授に昇格。

帰国以来14年、北朝鮮での暮らしや拉致問題の内実を訳書、著書にして訴えているほか、日本各地を講演やTV・ラジオへの出演などに飛び回り、拉致問題の解決に向けて精力的に取り組んでいる。

新潟県立村松高等学校 東京同窓会事務局
〒190-0011 立川市高松町2-37-18
TEL&FAX:042-527-6482 (吉井 清)

と き : 平成28年6月4日(土)

12:00～ 講演(予定)

と ころ : ホテル グランドパレス
3階「白樺」

住 所 : 千代田区飯田橋1-1-1

TEL:03-3264-1111

会員以外でご出席を希望される方は、事前に左段下記の事務局へ5月20日までお申し出ください。

*会費8,000円は当日お支払いください。

なお、講師には、第三部の懇親会にもご出席いただく予定です。

● 著書

『蓮池流韓国語入門』 文春新書、2008年
北朝鮮で韓国語を学ぶ上でいろいろな苦労話やエピソードとともに韓国語の基礎的知識を掲載

『私が見た、「韓国歴史ドラマ」の舞台と今』

講談社、2009年
韓国の歴史ドラマを通して知ることのできる韓国の過去と現在、国民性などの日本との比較

『半島へ、ふたたび』(のち文庫)

新潮社、2009年
帰国してから初めて韓国に行ったときに訪れた各地を南北の比較やこみ上げる感慨とともに紹介

『夢うばわれても拉致と人生』

PHP研究所、2011年
拉致されたときの思い、24年間の北朝鮮での生活の末に、帰国した時の思いなどをつづった。

『拉致と決断』(のち文庫) 新潮社、2012年
拉致された24年間の生活、帰国時に日本にとどまる子供を待つと決断したときの状況など

● 訳書

金薫『孤将』(のち文庫) 新潮社、2005年
ほか、多数。



平成26年度 収支決算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

	費 目	決 算 額	備 考
収 入	前年度繰越金	102,764円	平成25年度
	会 費	1,165,000円	
	(年会費	573,000円)	191名分の会費
	(大会費	592,000円)	第57回大会出席者74名分会費
	寄付金等	147,000円	
	本部助成金	30,000円	
	雑収入	480円	
	合 計	1,445,244円	
支 出	大会費用	823,197円	第57回大会経費
	会議室借用費	69,300円	常任幹事会2回、幹事会6回
	広報活動費	181,820円	会報発行関連費ホームページ
	通信費	34,329円	ハガキ代、郵送代他
	渉外費	140,000円	本部同窓会出席、県人会賛助会費他
	年会費振込手数料	15,292円	
	諸雑費	86,873円	封筒作成費、振込代、コピー代他
	合 計	1,350,811円	
(収入)1,445,244円－(支出)1,350,811円＝94,433円 次年度へ繰越			

平成26年度 寄付者と寄付金 (敬称略) “まことにありがとうございました”

- 50,000円 村松高校同窓会ご祝儀
- 50,000円 長岡工業高校同窓会東京支部ご祝儀
- 8,000円 山田 俊治
- 7,000円 平山 誠一
- 5,000円 徳永 道子
- 2,000円 篠川 恒夫、山崎 輝雄、片柳 ムツ、塚田 勝、吉井 清、石黒 四郎、大橋 貞夫
今井 英雄、石黒 勝夫、鈴木 長五、斎藤 正義、安中 信夫、瀧澤 義則
- 1,000円 大岩 信也

ベーゼンドルファーピアノ修復基金特別会計収支報告 (単位・円)

平成25年6月1日から平成27年6月5日まで

収入の部	支出の部
寄付金 3,025口 (242名・団体)	ピアノ修復費 (本部へ) 2,000,144
3,025,000	記念品 130,108
郵便切手 2名 10,800	案内状・お礼状郵送代 70,370
	帳票印時料金 3,900
	振込手数料 22,620
	寄付者ご芳名看板製作費 100,000
	その他運営費 223,769
収入合計 3,035,800	支出合計 2,550,911
	差引残 484,889

以上の通りご報告いたします。

平成27年6月6日 東京同窓会長 金子 鶴男 ㊟
財務委員長 徳永 道子 ㊟

決算及び収支報告は監査の結果、適正に処理されて

いることを認めます。 平成27年5月15日
会計監事 片柳 ムツ ㊟
会計監事 高岡 五百子 ㊟

平成27年度 東京同窓会事業計画（案）

【一般事業】

随 時	会員名簿・幹事名簿等の加除修正発行及び保管（総務委員会）
6月 6日	平成27年度定期大会の開催 会場・ホテルグランドパレス
8月22日	本部同窓会総会への出席
2月 日	東京同窓会会報誌 新春号（NO57号）の発行（広報委員会）
2月 日	東京同窓会28年度予算・27年度決算の策定（財務委員会）
随 時	東京同窓会ホームページの更新管理（広報委員会）
随 時	東京同窓会の運営に伴う会則の改正（総務委員会）
随 時	東京同窓会幹事及び会員等研修会の企画立案（総務委員会）
随 時	他校同窓会との交流等意見交換会の企画（総務委員会）
随 時	東京同窓会所有物品の整備及び管理保管（財務委員会）

【特定事業】

随 時	「甦れ 松高！」 母校の発展を考える会運動の立ち上げ（総務委員会）
随 時	東京同窓会会員増強へ向けた取り組みの企画（総務委員会）
随 時	東京同窓会の広報宣伝及び会費増収手法の研究（広報・財務委員会）

平成27年度予算書（案）

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

	費 目	予 算 額	備 考
収 入	26年度繰越金	94,433円	
	会 費	1,400,000円	
	（年会費	600,000円)	新入会員の勧誘を推進
	（大会費	800,000円)	第58回大会会費
	寄付金等	60,000円	
	雑収入	1,000円	預金の利息等
	合 計	1,555,433円	
支 出	大会費用	800,000円	第58回大会経費
	会議室借用費	80,000円	常任幹事会2回、幹事会7回 各委員会の開催
	広報活動費	220,000円	「会報」発行関連経費
	通信費	60,000円	はがき・切手代、宅配便等
	渉外費	190,000円	本部同窓会へ出席、県人会賛助会費他
	諸雑費	80,000円	ホームページ、コピー代、消耗品等
	予備費	125,433円	
	合 計	1,555,433円	

以上、提案いたします。

平成27年6月6日

東京同窓会長

金子 鶴男

財務委員長

徳永 道子

村松高校東京同窓会 第58回大会報告

広報委員 石黒勝夫 (高14回)

6月6日(土)、千代田区飯田橋のホテル グランドパレスにおいて第58回定期大会を開催した。

来賓として同窓会本部の荒木快英会長、母校の櫻井麻利子教頭、後援会長の伊藤勝美五泉市長、活発に交流している長岡工業高校同窓会東京支部の高坂五郎作理事長ほか7名の役員をお迎えし、総勢106名の出席となり、鈴木長五・福田奈保子両幹事の司会で式次第は進行した。

第一部総会は、金子鶴男会長から「母校のピアノ修復支援」お礼の挨拶があり、続いて荒木会長、櫻井教頭、伊藤市長、高坂理事長の皆様から心温まるご挨拶をいただいた。この後、総務・財務・広報委員会の各委員長からの活動報告や決算・予算・事業計画等を承認し、続いて東京同窓会が2年間にわたり行ってきた「ピアノ修復基金」特別会計収支も報告して終了した。

第二部は、いよいよトランペット演奏(演奏者・飯吉高さん、ピアノ伴奏・飯吉亜季子さん)が始まるとその音色にすっかり魅了され、一同熱心に聴き惚れていた。

第三部の懇親会は、冒頭に、金子会長から白寿を迎えられた渡辺フミ先生のご紹介と、お祝いの花束を贈呈してスタートした。

恒例の「お楽しみ抽選会」も、皆様のご厚意で景品がたくさん集まり、大勢の当選者が出て大いに盛り上がった。その後、真水道子・山田俊治のご両人を先頭に佐渡おけさの踊りが始まり、この日のために猛練習を重ねてきた幹事諸氏が率先して、大勢の会員と共に大きな踊りの輪が出来あがった。終わりに校歌・応援歌の大合唱でフィナーレに花を添え、お開きとなる。

心残りを胸に、再会を約してホテルを後にした。

東京同窓会・第58回定期大会収支報告書

平成27年6月6日(土) 於 ホテル グランドパレス

収入の部 (単位:円)		支出の部 (単位:円)	
①会費 (97名×8,000円)	776,000	①懇親会費	717,000
②会員寄付金 (有志)	65,000	②演奏者謝礼他	76,800
③同窓会本部祝儀	70,000	③同窓会本部対応費	49,496
④伊藤五泉市長	10,000	④通信費	41,340
		⑤諸雑費	45,870
収入合計	921,000	支出合計	930,506
一般会計から補填	9,506		
総計	930,506	総計	930,506

平成28年度 県立村松高等学校東京同窓会開催のお知らせ

◆日時 28年6月4日(土)

第59回定期大会

*午前11時半 開会

*12時頃より

蓮池薫氏の講演

◆場所 ホテル グランドパレス

千代田区飯田橋1-1-1

Tel: 03-3264-1111

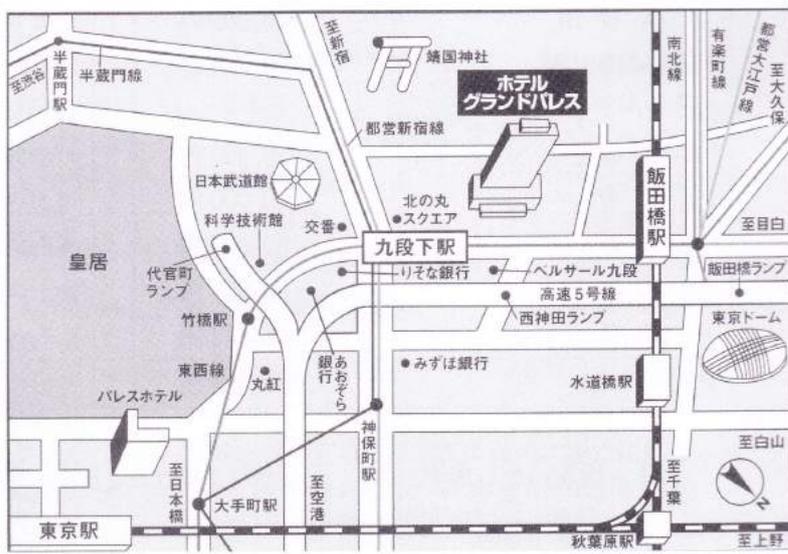
交通 ●地下鉄「九段下駅」

*東西線7番出口より徒歩1分

*半蔵門線・都営新宿線

3a出口より徒歩3分

●JR・地下鉄「飯田橋駅」より
徒歩7分



第 58 回 東京同窓会 出席者名簿

平成27年6月6日(土)

於 ホテル グランドパレス 3F 「白樺」

新潟県立村松高等学校東京同窓会

来賓・他 (11名)	高 校	高 校	高 校	高 校
村松高校同窓会	0 2 篠川 恒夫	0 9 石黒 四郎	1 5 鈴木 長五	2 0 安中 信夫
本部長			1 5 高岡 光夫	2 0 阿部 慶子
荒木 快英 様 (高4)	0 3 小池 生夫	1 0 大橋 貞夫	1 5 北出 昭夫	2 0 石井 清和
本部 副会長		1 0 新保 優	1 5 堤 桂子	2 0 齋藤 義秋
滝沢 義則 様 (高2)	0 4 鈴木 健司	1 0 宮沢 正由	1 5 高橋 泰子	2 0 安達 繁子
本部事務局	0 4 鈴木 多喜男	1 0 小島 典子		2 0 三宅 紀子
熊倉 洋子 様		1 0 真水 道子	1 6 郡司 正大	2 0 山本 悦子
熊倉 富美子 様	0 5 金子 鶴男	1 0 田中 富子		2 0 田中 豊
酒井 加代子 様	0 5 雲村 俊愷		1 8 青木 敏和	
	0 5 熊倉 芳夫	1 1 佐藤 赳	1 8 斉藤 正義	2 1 坂上 三夫
村松高校 後援会長	0 5 新井 康夫		1 8 江口 浩市	
五泉市長	0 5 樋口 栄二郎	1 2 新井 三郎	1 8 高岡 英治	2 2 阿部 モヨ子
伊藤 勝美 様	0 5 山崎 豊吉	1 2 今井 英雄	1 8 平松 伸一	2 2 大橋 利光
村松高校 教頭		1 2 安部 實	1 8 三室 茂和	2 2 笠原 和夫
櫻井 麻利子 様	0 7 加藤 喜七	1 2 高岡 五百子	1 8 笠原 静夫	2 2 松澤 綾子
村松高校 事務長	0 7 宮川 裕皓	1 2 徳永 道子		2 2 濱田 守
加藤 喜章 様		1 2 桑原 トム	1 9 五十嵐 勝栄	2 2 平山 誠一
村松高校 旧職員	0 8 塚田 勝	1 2 近藤 燦子	1 9 石黒 久七	2 2 柴野 暢夫
渡辺 フミ 様	0 8 高地 彰		1 9 佐藤 知伸	
	0 8 山崎 輝雄	1 3 小黒 雅晴	1 9 武藤 達家	2 3 福田 奈保子
長岡工業高校同窓会	0 8 細野 正比古	1 3 武藤 正昭	1 9 野平 茂子	2 3 永田 毅
東京支部	0 8 岡部 ユキ		1 9 魚野 由清	
理事長 高坂 五郎作 様	0 8 片柳 ムツ	1 4 石黒 勝夫	1 9 梁取 久信	2 5 林 信子
事務局長 大関 稔 様	0 8 木村 孝子	1 4 熊倉 道雄		
監事 片桐 謙一 様	0 8 波多 ミサエ	1 4 山田 俊治		3 2 佐藤 司
理事 山川 昭男 様	0 8 山西 愈佐子	1 4 斉藤 正克		
理事 小島 洋 様	0 8 久我 マキ	1 4 加藤 延雄		
理事 粉川 博 様	0 8 小熊 馨子	1 4 高見 ハル		
理事 成田 修 様	0 8 吉井 清	1 4 横溝 美枝子		
幹事 氷見 健治 様		1 4 伊藤 昌夫		
				出席者合計 106名



金子会長の開会挨拶



荒木同窓会長ご挨拶



伊藤五泉市長ご挨拶



櫻井教頭ご挨拶



皆でおけさの輪踊り



佐渡おけさの輪踊りスタート



飯吉夫妻のトランペット演奏

「松城精神」

新潟県立村松高等学校 校長 今西 博一



新年あけましておめでとうございます。同窓会の皆様におかれましては、お元気に新しい年をお迎えのことと存じます。また、日ごろより、母校・村松高等学校の教育活動に多大なご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度の村松高等学校の様子を報告させていただきます。平成27年度入学選抜状況は、募集学級3学級、募集定員120人に対しまして、入学者102人であり、全校生徒310人（男子165人、女子145人。1学年102人、2学年110人、3学年98人）でスタートしました。五泉市内には5つの中学校がありますが、本校に在籍している五泉市内中学校卒業生数は296人、95.5%であります。この数字からも地域に密着した高等学校として、地域の皆様に信頼され、慕われる学校として、魅力ある学校づくりを更に推進してまいりたいと考えております。

次に、卒業生の進路状況についてであります。平成27年3月の卒業生は83人でありました。専門学校等を含めた進学者数は47人（56.6%）。4年制大学進学者は9人で、前年度4人の2倍以上となりました。国公立大学には新潟大学と山形大学に各1人ずつ合格しました。就職者数は33人（39.8%）で、その多くは地元五泉市内の企業を中心に就職しております。就職希望者は100%就職している状況です。

この実績につきましては、徹底した個に応じた教育、つまり、平日の授業の他に放課後や夏季休暇中の補習、計画的なキャリア教育（1年次：職場・上級学校見学会、2年次：インターンシップ、3年次：五泉市合同企業説明会等）の実践により、生徒の進路希望の実現に向けて教職員が生徒、保護者と連携を図りながら、学校全体として組織的に指導している結果であると感じております。

現在の3年生は、45人（46.4%）が進学希望、52人（53.6%）が就職希望ですが、それぞれが希望の実現を目指し、鋭意努力をしております。

次に本校における新規取組等についてであります。

今年度から1・2学期に1週間の読書週間を新設しました。生徒達は登校後、クラス担任から連絡等を聞いた後、10分間読書を行います。この読書週間を導入するに当たり、同窓会の今井順彌様（高2回卒）からのご寄付の一部を使わせていただき新たに300冊の図書を購入するとともに、学校図書館に人員を配置し、その活性化を図りました。誠にありがとうございました。更に、今井様のご意向であります「グローバルな人材育成のために」を具現化するために、電子黒板の設置に向けて検討させていただいております。

また、文部科学省の委託事業として「道德教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の高等学校の研究推進校に指定されました。県内では本校のみであります。平成27・28年度の2ヵ年間の取り組みになる予定ですが、本事業を通して生徒達の進路希望の確実な実現を更に推進できるものと確信しております。

次に、部活動関係ですが、本校には運動部8部、文化部7部、1同好会があり、全校生徒の75%がそれぞれ目標を持って取り組んでおります。

平成27年度の野球部は「第97回全国高等学校野球選手権新潟大会」において、3回戦で第3シードの学校を10回サヨナラで勝利し、4回戦（ベスト16）まで進出しました。1・2回戦は五泉市民球場で、3・4回戦は新潟市鳥屋野球場で試合をしましたが、毎回多くの同窓生、地域の皆様が応援に駆けつけていただき、松高は本当に愛されていると感じました。サッカー部、インターアクト部他、全ての部活動においてもその取組が活性化されてきています。今後の成果が期待されるところであります。

平27年度は2回の講演会を本校で開催しました。5月27日にPTA教育講演会としてスキーアルペン競技オリンピック出場者の皆川賢太郎さまから「未来を掴む力」と題してご講演をいただき、更に、戦後70年の年であり、五泉市村松地域に陸軍の少年通信兵学校が開設されていたことから、第12期生として入校されていた大口光威様（茨城県守谷市在住）から「戦場に散った十代の少年たち ～元少年兵が語る戦争の実態と平和への思い～」と題してご講演をいただきました。生徒達は、皆川様のご講演からは夢の実現のためのエネルギーを、大口様のご講演からは平和に対する再認識を感じ取ったのではないかと感じております。

母校村松高等学校は平成28年に105年目を迎える歴史と伝統ある学校です。先輩方におかれましては、青春時代を謳歌した思い出の学校、素晴らしい母校であることと存じますが、現役の生徒達も前述しましたように松城精神「誠を尽くし 志をたて、必ず実行する」を確実に受け継ぎ、各自の進路実現のため、学習活動に、部活動に一生懸命頑張っております。

この松城精神を確実に受け継ぎ、村松高等学校を母校として、心から愛し、「誇りを胸に」活躍してくれる有為な人材の育成に努めてまいりたいと考えております。今後ともなお一層のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。同窓会の皆様の益々のご健勝とご発展を祈念し、新年のあいさつとさせていただきます。

平成27年村松高等学校の本部同窓会総会に出席して

石黒 勝夫 (高14回)

平成27年村松高等学校の本部同窓会総会は、昨年8月22日(土)、午後5時から五泉市村松町の割烹 新瀧において、ご来賓、会員合わせて70人ほどの出席を得て開催されました。

東京同窓会からは、金子鶴男会長、大橋貞夫副会長兼広報委員長と私の3人が出席しました。

はじめに、本部の荒木快英会長から挨拶があり、前年10月11日にさくらんど会館イベントホールで開催した「ベーゼンドルファーピアノ修復記念演奏会」に、750人もの入場者を迎えて盛大に行うことができたことの報告とお礼がありました。

続いて今後の課題として、平成25年7月31日にプロジェクトチームが取りまとめた「学力が伸びる中高一貫校を松高に設置するために」の報告書の実現に同窓会として取り組んでまいりたいので、ご理解、ご協力をいただきたい旨、話されました。

最後に、生徒数の減少から平成28年4月に愛宕中学校と山王中学校が統合して「村松桜中学校」として新しくスタートする予定であるとの報告がありました。

東京同窓会の金子会長からは、平素、本部からご支援をいただいていることへのお礼と、総会の前に母校の音楽室を訪れて、修復されたベーゼンドルファー社製のピアノと修復基金を寄付された会員をはじめ大勢の皆さんの氏名が刻まれた看板を見てきたこと、それを見て母校を支援した大きな事業だったことに、改めて感慨深いも

のを感じたとの挨拶がありました。

村松高等学校の今西博一校長からは、新しく取り組んでいる規律週間、読書週間の内容や文部科学省から指定されている道徳教育の取り組み状況などの報告がありました。

6時からの懇親会は、吉田裕実さん(高23回)のフルート・オカリナ、田近圭子さんのピアノの共演で幕を開け、寛いだ雰囲気の中で始まりました。

我々3人は今回で2年連続の出席。その日の晩、ひやんで花火大会も開催されていたので、時々遠くに聞こえる花火の音も聞きながら、親しみを増した同窓の皆さんとの交流・懇親を一層深めるひと時となりました。



修復なった母校の「ベーゼンドルファー社製ピアノ」と「ピアノ修復寄付者芳名看板」

石黒 勝夫 (高14回)



昭和4年(1929年)に購入され、84年経て傷みが激しい母校のピアノ。平成25年(2013年)6月、その修復に立ち上がって修復基金の募集を開始。4か月後に本部も立ち上がり基金を確保して蘇った母校の名器ピアノ。同26年(2014年)10月11日、さくらんど会館において750人の参加を得て記念演奏会を開催しました。

そのピアノを同27年(2015年)8月22日(土)、金子会長、大橋副会長と私の3人、母校の音楽室で再会しました。ピアノには、除湿装置も施され、大切に保管・使用されていました(左の写真)。

音楽室に入る入口の扉の上には、ピアノ修復基金にご寄付された方の芳名看板が掲げられています。(右の写真)。

東京同窓会がお預かりした基金の総額は3,025,000円、件数では242名・団体でした。

ふるさとお帰りの際は、母校を訪ねて修復なったピアノを直接眺め、弾いてみませんか。また、芳名看板に善意のご寄付をされた方のお名前を見出して、同窓会の力を再認識してみませんか。



クラーク像 お清め

札幌松城会会員 望田武司 (高14回)

野外彫刻を楽しむ友の会というサークルが札幌にある。単に彫刻を鑑賞するだけではなく、公園や広場にある野外彫刻を清掃しているボランティアグループでもある。

野外彫刻はどこの町にもあるが、これらを誰が清掃しているのだろうかと考えたことがあるだろうか。自治体や公園管理者ではないの、と誰しもが思うだろう。私もこの会に入る前はそう思っていた。ところが、ほとんどの市町村ではやっていないのである。各自治体は雨が降れば汚れを落としてくれるだろう程度の認識だ。実際は、雨は雨でも酸性雨にやられ、鳥やカラスのフンで汚れているのが実情で、建てたら建てられっぱなしなのだ。



札幌郊外の羊ヶ丘展望台に建つクラーク博士の立像は、大きなブロンズ像で、片手をあげた独特なポーズをとっている。台座を含めて5mの高さがある。これを清掃しようというのだ。清掃は観光客で賑わう前の朝早く行われ、高圧洗浄機で勢いよく水を吹き付け、その後は雑巾で拭く。クラーク像は瞬間間に朝の太陽に輝いた。

80歳を超す気さくな会長曰く「ハハ、子ども、子どもの遊びですよ。洗浄機で水をかける、これは楽しいものですよ、ハハ」消防士の気分だろうか。



6年前にもクラーク像の清掃が行われた。このときは高圧洗浄機などなかった。このため足場を組んで清掃す

るという大掛かりなものだった。もともとこのサークルはご婦人で、しかも年配者が多く、大丈夫かなと思っていましたが、今回はハイテクの水鉄砲のような新兵器が用意されており、足場などは組まなくてすみホツとした。

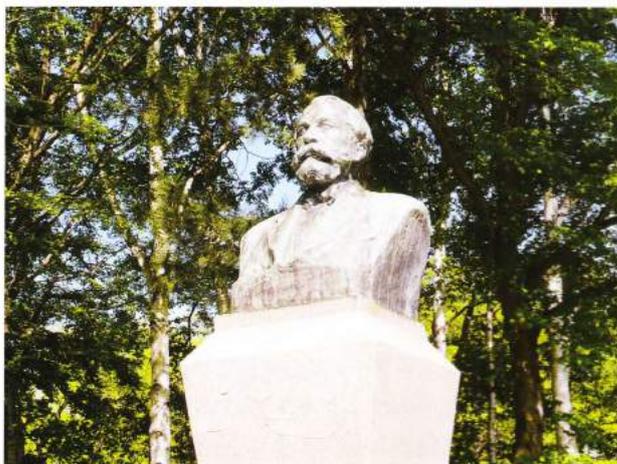
ただ、6年前と変わらないものがあつた。清掃が終わる頃、修学旅行生を中心に膨れ上がった観光客が、クラーク像の前でみな片手をあげて記念写真を撮っていたのだ。クラーク博士にあやかりようというのだろうか、人の心理は何年たつても変わらないようだ。

実は羊ヶ丘展望台のクラーク立像は、昔からあつたものではない。札幌農学校の教頭として、明治9年の開校とともに来札したクラーク博士は、わずか8か月ちょっとで日本を去るが、その割にはいまだにその名が知られているのは、Boys be ambitious. このパンチのきいた一言だけではないようだ。

クラーク博士は、農学校を創設した当時の黒田清隆開拓長官を説得して、日本では9年前まで禁教だったキリスト教を国立の学校で教え、後世の人が言う“キリスト教に基づく人間教育”に徹した。この結果、農学校でありながら、初期の卒業生の多くは新渡戸稲造や内村鑑三など、教育者として全国に散らばるのである。

クラーク精神を受け継いだ新渡戸稲造は、その後旧制一高の校長となり、その教え子に終戦直後の東大総長南原繁・矢内原忠雄らがいた。矢内原は戦争の反省から、自ら“農学校の子”と称し、教育は自由主義的な個々の人間を伸ばしていくという札幌農学校の原点に戻るべきだと説いて、従来の国家主義的教育からリベラル教育への転換を強調した。また南原は戦後の日本の教育の骨格ともなる教育基本法の草案を作った。このように、日本滞在期間が短くても、クラーク精神は脈々と日本の教育界に引き継がれた。

そのクラーク博士を顕彰する胸像が北大構内にある。



戦後の観光ブームで本州からの観光客は、このクラーク像を一目見ようと、観光バスで続々北大構内に入ってきた。音を上げたのが大学当局であつた。教育の場に観光バスがあふれるに及んで、ついに車を締め出してしまった。



クラーク博士は札幌観光の目玉である。この大学当局の決定に困惑したのが、札幌の観光関係者だ。なんとかならないものか、別なところに新しいクラーク像を作ろう。こうして羊ヶ丘展望台に建つクラーク立像は、札幌観光協会の手によって作られた。北大構内のクラーク胸像に対し、片手を挙げてどこかを指している羊ヶ丘のクラーク立像の方が、どう見ても格好がよい。いつのまにか、クラーク像というと、多くの観光客は羊ヶ丘のクラーク立像を連想するようになる。

北海道庁旧本庁舎（重要文化財、通称赤れんが庁舎）に、帰国するクラーク博士が学生と別れるシーンの絵画が、廊下に展示されている。洋画家の田中忠雄氏が描いたものだ。



50歳になる1日前の明治9年7月30日、札幌に着任したクラーク博士は、翌年5月には札幌を発つ。1期生の生徒たち24人は、名残を惜しんで札幌を発つクラーク博士の後を馬でついていく。札幌と千歳のほぼ中間点にあたる今の北広島市島松に駅通があった。絵の右上に描かれている掘立小屋風の建物である。ここで休憩したクラーク博士は、再出発するとき、きりが無いのでここで別れようと一人一人の学生と握手をし、学生は涙を流して別れを惜しんだ。この時にクラーク博士が発した言葉が、あの有名な **Boys be ambitious!** である。

じつはこの絵でも主人公のクラーク博士は指をさしている。羊ヶ丘展望台の彫刻にしる、赤レンガ庁舎の絵画にしる、クラーク博士の指先は何を物語るのだろうか。クラーク先生は指をさして話すのが好きだったのだろうか。

放射冷却現象で冷え込んだ朝であったが、陽が昇るにつれて気温は上り、抜けるような青空が広がっている。木々は秋色濃く、羊ヶ丘から見える194万人都市の札幌のビル街をバックにした牧歌的な景観が、札幌市にまだあった。

高校卒業後、村松を出て全国行脚すること半世紀、定年退職して終の棲家を札幌に求めて12年となる。

(2015年晩秋 記)

朋有り、遠方より来る、また楽しからずや

石黒 勝夫 (高14回)

10月2日(金)の昼、御徒町の吉池ビルに村松高校同級生(昭和37年3月卒・14回)が9名集まり、ミニ同級会を開きました。

札幌を終の棲家としている「札幌松城会」の望田武司君が上京するというので、卒業以来53年振りの再会という同級生もいることから、勝手に幹事を買って出、首都圏在住の同級生10数人に呼び掛け集まったもの。

一目見てすぐに顔と名前が分かる者もおれば、しばらく会話しながら面影を探し求めてから分かる者など、懐かしい再会のシーンから始まりました。

再会を祝しての乾杯の後、一呼吸おいてから一人ひとりの近況報告です。全員が高齢者(前期)と呼ばれる年代に入ったためか、話しの中心が健康の維持方法や抱えている病のことにまで及んだが、日々人生を前向きに取り組んでいるその姿には感動し、学んで実践すべきものが多々ありました。



人生の楽しみの一つには、こうした親しい友と酒を酌み交わし、歓談することにもあるということです。それが故郷も同じ、机を並べて学んだ友、しかも、北海道という遠方からやってきた同級生との再会ですから、往時から今日に至るまでの話しが延々と続き、時間の過ぎるのを忘れるほどでした。

ある人が言っていたことを思い出します。それは「サンデー毎日になってから特に大事にしなければならないのは家と友」だと。その「家」とは家庭、家族であり、「友」は友人、知人です。年を重ねていくにつれて友人、知人は少なくなっていくのが自然です。その友人、知人をより多く持ち、親しく交わっていく、つまり出歩く(出合いの)機会を多く持ち、近況を報告し合ったり、意見を交換したりすることが自分を高め、元気ももらえ、人生そのものを豊かなものにするということでしょう。

これからも友との絆を大事にして、会える機会があれば出掛けるように心掛けたい、それには健康に留意した生活を送ろうと、心に誓ったひと時でした。

遠来の朋よ、ありがとう。See you again!



平成二十七年年度芥川賞受賞作

「火花」を読んで

堤 桂子 (高15回)

子供の頃、火事が好きだった。夜空に燃えさかる真っ赤な炎、煌めき降り注ぐ火の粉。不謹慎だと叱られそうだが、ワクワクしたものだ。

火には人を引きつける魔力が潜む。火事を見る機会も無く焚火すら禁じられている都会、「火花」という題に惹かれた。

語り手である徳永は花火の夜出会った、天才的漫才師神谷に心酔し弟子になる。神谷は日常生活全てを漫才に捧げ、「阿呆な人間である己をさらすことこそが、真の漫才師」と美学を語り実践。「わかるヤツにだけわかればいい」という芸術家のような視点は時流に乗るはずがない。表現が露骨で暴力的だったりする為に、次第に仕事も減り、借金も嵩んでいく。それでも唯一の理解者徳永と、禅問答のようなメールを交換し、笑いのネタを模索し続ける。

奇行の目立つ彼に息苦しさを感じた徳永が、距離を置きながらも繋がっていたい心情が、様々なシーンに丁寧に描かれていて切ない。言葉で笑わせるべき芸人神谷が、最後徳永を笑わせようと、豊胸手術をして現れたのには驚いた。「ありえない」と思ったが、極限までつきつめる人の中には、こうした奇抜な発想も生まれるのかもしれない。

これは師弟二人の、火花を散らす青春の十年を描いた作品だが、老いた今読んでみると、ちょっと面白い。七十歳の自分の中に、神谷を認めたいところが残っているのだ。誰の中にもいる神谷が、年と共に凡人になり、何とか無難に過ごせていることに皆、安堵し、感謝しながら、どこかでそれを惜しんでいるように思える。

神谷のように空気を読めぬ人を軽んじて「もっと大人になれよ」と言いがちだが、そのくせ、常に他人に合わせる自分が卑怯に思えたり、疎ましかつたりする。奇人変人こそが、文化を牽引してきたのではなかろうかと、ふと思ったりもする。

小学生の頃から落語好きで漫才はうるさいとさけて来たが、これを読んで変わった。

時代と共に変化する「笑い」をとり続けることは難しい。笑いたくて寄席へ集まる人。ただの通行人。暇を持って余してTVの前にいる人。それぞれの前で同じ芸を披露しても、皆同じように笑ってはくれない。中には不快になる人もいるに違いない。それほど大変な世界で、下積みの生活に耐え、浮上する時を待ち続けられるのはなぜだろう。笑いをとれた瞬間、笑う側とは比較にならぬ恍惚感が、

全身を包んでくれるのだろうか。

笑い、に魅せられた二人と違い、私には何かに夢中になった記憶がない。本好きで、高校時代は授業中小説を読んでいてよく叱られた。あげく黙認されたが、その分成績は下がりっぱなし。以来、特にやりたい事もなく、探す努力もせずに結婚出産。難産で、息子に軽い「学習障害」が残った。普通高校を卒業したが、この障害は、驚く程の読書量や記憶力を持ちながら、洗濯物の畳み方がわからないなど出来る事、出来ない事の差が余りに大きく、コミュニケーション能力にも欠けるので、他人には理解され難い。長年息子中心に物事を考えてきた私には神谷のような人間も、丸ごと受け入れる土台が、いつの間にか出来ていたようだ。こうした私の幾分ずれた感性と、貧しい想像力で作り上げた「あるべき母親像」にしがみつiki、寄り道もせずに来てしまったが、今更ながら、他の選択肢もあったのでは、と悔いが残る。

三十年前のある日、知人との会話の中で何もしてこなかった私は「無為な日々を子供のせいにしてはいないか」と指摘され、ズキンと響いた。

流されてきた私は、日の目を見ずに消えた芸人を、可哀そうとは思わない。彼等は、自分のやりたい事を見つけ、犠牲を払って迄進んだことを後悔してはいないはず。誰も笑ってくれないのでは、という恐怖感の中で、舞台（例えそれがビールケースの上だったとしても）に上ることで心も鍛えられただろう。若い頃、出口の見えない暗闇の中をあがいた経験は誰もが持つが、その闇が深いほど「面白い人生だった」と言えそうな気がする。

引き出しの奥に、小束の線香花火をみつけた。「ボトリ、と落ちる火の玉は、潔くて好き。火花も、はかなくていいわねえ」。とはいえ去年のもの。湿気いて、火はつくまい。

でも、もしかしたら、まだ火花を散らしてくれるかもしれない。能天気な私には、自分の分身のように思え、肩籠に伸ばした手を止めた。

2015年10月 記



高校生の美的感性

鈴木長五 (高15回)

つい先日のNHKニュースで、近頃の若者たちが恋愛をしたくない率36,7%という数字を見てギョッとした。理由の第一は 恋愛コストパフォーマンスが合わないのだとか。次に面倒くさい、更に自分の私的な時間、空間を他人に邪魔されたくない、と続いてゆく。昭和生れの自分は少しだけ頭が変になりそうになった。こんな話から始めるのは、今36,7%症候群予備軍の真ただ中において、この先々成人して行く若者たちの将来に、不安と心配を感じているからである。

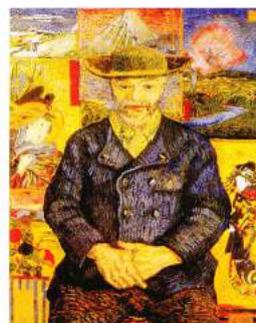
現在私は千葉県某県立高校・服飾デザイン科の非常勤講師を賜っている。女子中心ではあるが、授業内容はファッション画(又はスタイル画ともいう)を中心に人体プロポーション基礎から作品完成までを指導している。ファッション画は江戸時代では浮世絵の美人画、風俗画であり、現在、我々が目にする元祖スタイル画家と言え、昭和30~40年代に少女雑誌「ひまわり」などで大活躍をした中原淳一を挙げる事ができる。授業対象が高校生ということもあり、教養講座の気持ちで年に何度かは、世界的に超有名な絵画や画家、美術史などについてミニ講義をすることがある。無論自分はこの分野に於ける専門家ではないので、深く突っ込んだ話をするには限界があるが、生徒たちに少しは刺激を与えられたらそれで良いと自己満足をしている。私は服飾デザイン系卒で、アパレル企業に長年在職し、後年は専門学校講師というキャリアである。さて、講義後の感想文で生徒の反応に手応えを感じた中のホンの一部を誠に僭越乍らここで紙上紹介してみたい。



左は葛飾北斎「神奈川沖浪裏」1830年の木版画で、西の「モナ・リザ」か東の「神奈川沖浪裏」かと対比される程世界的レベルの有名作品である。

ゴッホはこの絵を見て、<あの波は爪だ、船がその爪に捕まれている>と語ったという。浪裏のこの構図は遠近法で、北斎が当時いかに西洋画に通じていたかを窺わせる作品であり、この絵で彼は定木、コンパスを使ったというから凄い。一方ではゴッホもまた日本最良・浮世絵通として知られていた。彼の浮世絵の模写も沢山残っている。こんな話の流れで、高校生がビックリしたのは、ゴッホと言えば名前と「ひまわり」位しか知らなかった彼女らが次の「タンギー爺さん」(1887年夏頃)を紹介した時である。初めはキョトンとしていたが、直ぐに、爺さんの背景にある富士山や花魁を見つけて「あっ、日本画だ!」と、何人かが嬉しそうに声をあげた。あの有名なゴッホの中に日本がある、というこの発見は新鮮な

驚きだったに違いない。昔、私もそうだった。この作品は、最も良くジャポニズムを表わしている。ジャポニズムとは、19世紀中頃にフランスを中心に、ヨーロッパで見られた日本趣味の事である。



当時、日本の美術品が万国博覧会に出品、注目され、西洋の画家達に多大な影響を与え、その後、1世紀近く続いた世界的芸術運動の発端となった。それもあがあるが、私が面白いと思っているのは仏画家ブラックモンのお話である。江戸時代末期、日本の伊万里焼が輸出され、その包装紙に葛飾北斎の「北斎漫画」が使われていた。ブラックモンは印刷屋の仕事場でそれを見つけて、友人であるマネやドガ、ゴッホなど当時の画家たちに伝えた。1856年の事である。その影響が印象主義誕生のきっかけになったとも言われている。

この頃の日本といえば、ペリー率いるアメリカ艦隊の浦賀来航騒ぎで、国中がひっくり返るような大騒動の状況下にあった。同時期にパリでは…と思うと、個々の歴史も面白いが、地球儀の視点からフランスと日本を同時に上から眺めてみるのも、今まで気づかずにいた新アングルが見つかったりして楽しいものである。

ジャポニズムの実例として、マネ作「ラ・ジャポネーズ」(1875頃)を紹介したい。これも有名な作品ではあるが大半の生徒は知らなかったようである。マネは、風景画のイメージが強過ぎるせいかもしれないが、生徒はここでもマネの画の中で一杯描かれた日本を喜んでた。



実を言えば、上記の拙い話で自分の気持ちがキチンと伝わったかどうか危惧の念を抱いていたが、その後の感想文を読んで、心配は吹っ飛んだ。「日本人に生まれて良かった」、「日本を誇りに思う」、「有名な画家に日本人が認められて嬉しい」等々日本のアイデンティティを感じさせる感想文の締め方が多かった。これは真に「絵の力」である。下手な解説等要らない。あの時代から1世紀半過ぎても、絵そのものが高校生の中にストレートに飛び込んでゆく。また、それを何の邪心もなく受け止めてゆく彼女たちの姿に、私はその時感動していた。その頃に、冒頭の恋愛したくない率36,7%のニュースにぶつかった。だが、この生徒達はしっかりした感性を持っているから絶対大丈夫だと思ひ、このまま真つすぐに伸びて行って欲しいものだと思ひ願っている。

四季の俳句

塩原 知子（高十五回）

古竹の傾ぐ竹林春の雨

連を小さく曳きて落花ゆく

夏めくや山また山を見はるかす

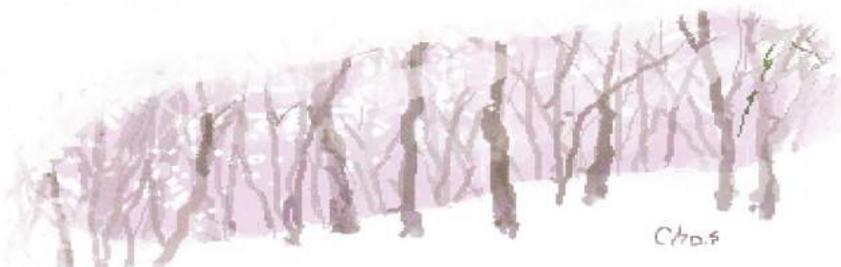
葉桜を斜めによぎる鳥の影

コスモスや遠山の雲動かざり

かすかなる風を捉えて花芒

冬空に秀広げたる大樺

ひとすじの光となりて冬の川



73歳の挑戦

徳永 道子（高12回）

6年前から、足腰を鍛えようとスポーツジムのプールで水中ウォークを続けてきた。私は全くのカナヅチで泳ぐことは出来ない。隣のレーンで、スイスイ泳いでいる人を横目で見ながら羨ましいと思いつつ、自分には絶対無理と思い、黙々とウォークとアクアビクスをする日々が5年過ぎた。平成26年の11月に友達が、水泳教室に入りなさいと無理やり誘ってくれた。だが、教室の人達は殆ど泳げる人達で、その中に入ったのでは他の人の迷惑になると思い、申し訳ない気持ちであった。

息継ぎも腕を回すことも生まれて初めての経験である私に、コーチは「大丈夫です。一緒に頑張りましょう」と云って練習が始まった。けのび、バタ足、腕廻し、息継ぎと進んでいくが……息継ぎがとても難しく、50メートルも進めずに苦しくなり立ってしまう。綺麗に泳いでいる人にいろいろ質問をして教えてもらったり「どれ位で息継ぎが出来るようになりましたか？」などと、何人もの方に聞いたりしたが、返ってくる返事は「1年半はかかった」とか「1年5ヶ月だった」とか……それじゃ私は、平成28年の3月か4月頃を目標に気長に頑張るしかないと考えた。

水泳教室に入って間もない時、長男に話すと「70歳過ぎて新しいことに挑戦することは、とてもいい事だから頑張りな!!」と励ましてくれたので、よし頑張ろうと思い、その後、主人に話すと「70過ぎて泳げるようになるか、なれるわけないよ」と言われて、なにくそ! 絶対泳げるようになってみせるぞ! と、二人の励ましの言葉? で俄然闘志が湧いてきた。

まず、最初の目標は息継ぎをして25メートル泳ぐことだ。半年くらい過ぎた頃、12.5メートル位は泳げたが、矢張り苦しくなって立ってしまう。1年近くたった頃には20メートル位は泳げたが、あと5メートルがどうしても難しかった。友達は「とにかく根気強く続けること。ある日突然、あっ泳げた! となるから絶対諦めない事」等とアドバイスしてくれた。

いろいろな人の言葉を受け止め懸命に頑張ってきて、遂にその日が来たのである。平成27年10月15日は私にとって最高の記念日になった。何しろ25メートルを泳ぎ切ることが出来たのだ~ 友達が拍手をして喜んでくれ、コーチも「やったね。凄い凄い、徳永さんの最初を知っているから、今、私は最高に感動しています」というお褒めの言葉! 涙が出るほどうれしかった。

25メートルは泳げたが、まだまだやっとなのである。ゆったりと優雅にターンなどをして、どこまでも泳げるようになる事が、これからの「私の夢」になった。

無資格の大学教員44年！

黒井 登起雄（高17回）

（1）大学教員として44年

私は、昭和40（1965）年に松高を卒業して東京の大学に進学しました。大学4年生の時に30余歳の若い恩師（岩崎訓明教授）と巡り会い、東洋大学大学院工学研究科修士課程で2年間、『コンクリート材料』に関する研究に取り組み、昭和46（1971）年に修士課程を修了致しました。その後、昭和46年に東京都立大学（現首都大学東京）工学部（土木材料講座、村田二郎教授）で、助手としての大学教員の生活をスタートしました。村田先生は、私の二人目の恩師に当たります。助手であった2年間は、セメントコンクリートの材料分析や、産業副産物（酸化鉄）の有効利用などの実験・研究に取り組み、研究発表に繋げました。

昭和48（1973）年、足利工業大学工学部に土木工学科が新設される際に、コンクリート工学を専門とする教員（講師、昭和49年から助教授）としての機会を得ました。平成10（1998）年に『鉄筋コンクリート構造物の耐久性に及ぼす電流場の影響に関する研究』で、東京都立大学大学院から博士（工学）の学位を取得し、平成11（1999）年、教授に昇格し、現在に至っています。学位（博士）論文は、鉄筋で補強されたコンクリートおよび構造物の電気分解による劣化現象（鉄筋の腐食とセメントペーストの軟化）と、それらの抑制方法（電気分解の軽減方法など）を解明したものです。

足利工業大学では（工学部土木工学科、都市環境工学科、現在、建築・社会基盤学系に名称変更、再編）、コンクリート工学、コンクリート材料、材料実験などの授業と、卒業研究、さらに、コンクリート工学特論などの大学院修士と博士課程の授業を行いながら、今年で、私の大学教員（教員免許資格を持たない無資格教員）としての生活は44年を数えます。丁度、松高を卒業して50年が経ちました。足利工業大学における42年間の教員生活の間に、大学における卒業研究、学会・協会における専門的な研究を通じて「（セメント）コンクリート」の諸問題、すなわち、鉄筋コンクリートの腐食劣化とその対策、コンクリートの練り混ぜ方法、コンクリートの水セメント比の推定方法、高強度コンクリートの試験方法、コンクリートの乾燥収縮特性などの諸問題の検証に取り組んでもきました。

（2）コンクリート（Cement concrete）の素晴らしい！

コンクリートは、「セメント、水、砂（細骨材）、砂利（粗骨材）および化学混和剤（薬品）とを練混ぜ、一体化したもので、その材料は、ホームセンターにおいて手軽に購入できるものです。しかし、セメント（結合材）には、製鉄所、火力発電所はじめ、最近では家庭ごみの焼却灰も資源化されて用いられています。また、骨材にも、製鉄所、火力発電所、ニッケル精錬所の廃棄物（溶

融スラグ）が再資源化されて、同様に用いられています。コンクリートも、一般の皆様方の知らない特性を沢山持っています。たとえば、岩石よりも強い高強度のコンクリート、施工作業のし易い高流動コンクリート、ひび割れても機能を維持する鋼・高分子繊維補強コンクリート、水を通し、浄化するポーラスコンクリートなど、環境に対応した素晴らしい機能を持つコンクリートが沢山あります。水に浮くコンクリートなどもあります。ただし、一般の皆様は、全て同じ灰色のコンクリートとしか認識できません（そこには説明が必要です）。私は、奇想天外な発想が多様に盛り込まれた『ドラえもん』漫画が大好きです。『何処でもドア』などは是非ほしいと思っています。素晴らしい機能を持ち合わせる『コンクリート』は、口を利くことが出来ませんので、それを代弁するサポーターが必要となります。コンクリートは、あまりにも高機能、便利であるために人前に出すぎていることから、「街の破壊者」呼ばわりもされています。最近の私は、そのコンクリートの支援サポーターを自認して、対応しなければとも考えています。



（3）進学率50%超に達した大学教育

高校、大学進学率は、高度経済成長期の1960年代から急速に上昇し、高校進学率は1975年頃に90%を超え、最近では約100%の高水準で推移しています。大学進学率も、1958年頃の8.6%から1976年の27.3%へと、高度経済成長を通じて大きく上昇しました。その後も、1990年の24.6%、2000年の39.7%、2010年には、50.9%と最高水準に達し、現在も高い大学進学率を維持しています。このような高進学率における大学教育は、どのように取り組む必要があるのでしょうか。大学に進学する学生の教育レベルは多様化し、全ての大学で同じカリキュラムを消化することは不可能です。大学教育は、「教えない（考えさせる）教育」だけから、「教える（学生の声を聴く）教育」、「教えながら考えさせる教育」を含めた多様な教育形態の導入が必要になってきました。大学教員には、それらの工夫が求められる時代になってきました。

私もそれらへの対応を進めながら、退職の時期を迎えました。 平成27年11月 記



第23回松高東京同窓会親睦ゴルフ大会

平成27年4月2日(木) 越生ゴルフクラブに於いて第23回親睦ゴルフ大会が開催され、10名が参加した。競技は、ハンデ査定を全員新ペリア方式で計算して行われた。成績は下記の通り。

成績

優勝：漆原 茂、2位：間藤 謙一、3位：佐藤 克
参加者

金子 鶴男、片柳 ムツ、間藤 謙一、大橋 貞夫
今井 英雄、斉藤 豊、石黒 久七
漆原 茂、五十嵐 勝栄、佐藤 克



第24回松高東京同窓会親睦ゴルフ大会

平成27年10月8日(木) 越生ゴルフクラブに於いて第24回親睦ゴルフ大会が9名の参加を得て催された。ハンデの査定は今回も新ペリア方式で行い、当面継続する予定になった。成績は下記の通り。

成績

優勝：佐藤 克、2位：斉藤 豊、3位：五十嵐 勝栄
参加者

金子 鶴男、斉藤 豊、五十嵐 勝栄
片柳 ムツ、今井 英雄、漆原 茂
大橋 貞夫、石黒 久七、佐藤 克



第25回松高東京同窓会の親睦ゴルフ大会開催予告

上記大会を平成28年4月7日(木) 越生ゴルフクラブに於いて開催いたします。腕に覚えのある方も、そうでない方も奮ってご参加ください。下記の幹事あてご連絡をお待ちしております。

幹事 今井 英雄 Tel & Fax: 049-296-0751 E-mail: imahid@watch.ocn.ne.jp

第31回和紙はりえ銀座展開催

8回生の木村孝子さん所属の美杉会はりえ展が2015年6月2日～6日、銀座の美術家連盟画廊にて開催され、3日に大勢の同窓生と拝観してきた。見事な作品ばかりで、皆さんにも次回の開催時には、ぜひご覧いただきたいと思う。



木村さんの作品



同窓のみなさん、黒い服装の方が木村さん

編集後記

今回は素晴らしい原稿が思いがけないほど集まり、心から感謝申し上げますと共に、次回もよろしくお願い致したく存じます。

最近、腰痛を発して思うように動けなくなりました。会員諸氏の中には、身に覚えのある方も居られることと思う。これからの東京同窓会の発展の為に、会員の増強と共に健康で活動できることも大事な要素になってきました。皆様のご健康を心底より祈念致します。 大橋 記

原稿送付先 大橋貞夫 宛

〒158-0094 世田谷区玉川 4-20-8

E-mail: sadao@gb4.so-net.ne.jp

平成28年2月 第57号

表紙の題名・題字は佐伯益一氏(旧中27回)の書

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

新潟県立村松高等学校 東京同窓会事務局

〒190-0011 東京都立川市高松町2-37-18

Tel・Fax 042-527-6482 (吉井 清)

東京同窓会HPアドレス : <http://www.matsukou-tokyodousoukai.net>